



予防接種のしおり ～接種前にお読みください～

子どものインフルエンザ

インフルエンザワクチンの受け方

体調の良い日に受けましょう！

★ 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している人(通常37.5℃以上の場合)
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ 過去に予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー(通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと)を起こしたことがあることが明らかな人
- ④ インフルエンザに現在かかっている人
- ⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

★ 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けたあと30分間程度は、お子さんの様子に注意して、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- ② 接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 当日は激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

★ 医薬品副作用被害救済制度 (子どもの任意接種)

任意の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、医薬品副作用被害救済制度の給付を受けられる場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

○ 予防接種の有効性

インフルエンザワクチンの接種により、インフルエンザを予防したり、症状を軽くすることが期待されます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

○ 予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがあります。また、わずかながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもあります。通常これらは2～3日のうちに治ります。

その他に、強い副反応として接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障がい、意識障がいの症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることもあります。

また、予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けた後、このような接種した部位の異常な反応や、体調の変化などが現れたら、速やかに医師(医療機関)の診察を受けてください。

そのほか、分からない時はお住まいの区の保健福祉センター(保健所)にお尋ねください。

接種を受ける前に 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)インストールをお願いします。
 (保護者の方のスマートフォンへもインストールをお願いします。)

- 厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」を開発しました。スマートフォンにインストールして、利用いただきますようお願いいたします。
 - このアプリは、利用者ご本人の同意を前提に、スマートフォンの近接通信機能(Bluetooth)を利用して、お互いに分からないようプライバシーを確保して、新型コロナウイルス感染症の陽性者と接触した可能性について、通知を受けることができます。
 - 利用者は、陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができます。利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。
- App Store または Google Play で「接触確認アプリ」で検索してインストールしてください。



(App Store)



(Google Play)



新型コロナウイルス接触確認アプリ
 について (厚労省 HP)